専大北上高校 地域の方々に学校開放

クラブ活動への参加可能に

専大北上高校（岩手県・黒沢勝郎校長）では、５月から月１回、図書館など3ヵ所の施設開放と、硬式野球部や吹奏楽部など１５のクラブ活動への地域住民の参加を可能とする「学校開放」を今年度から始めた。

図書館では施設利用のほか、図書の貸し出しも行い、情報処理室ではパソコン講座、レクリエーションホールでは英会話教室を開く。サッカー部や柔道部、剣道部などでは模範練習と基本的な実技指導を行っている。体操部では小学生を対象に跳び箱・マット運動を教えるなど、クラブによってさまざまな方法で地域の方々と交流を深めている。8月20日には市民の方を対象とした「学校開放講演会」も予定している。

【ニュース専修2004年6月号14面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

韓国留学生会と国際交流会開く

多摩川土手でバーベキュー楽しむ

韓国留学生会(代表=沈哲憲くん・文3)と国際交流会SHIP(代表=越後谷基(もとき)くん・経済3)共催の交流会が5月23日、多摩区登戸の多摩川土手緑地帯で開かれた。OBを含め約50人の参加者は、煙と格闘しながら、バーベキューを楽しんだ＝写真。会に先立ち、韓国留学生会顧問の古家保二氏(昭27商経)から「このような交流が留学中の良き思い出となるように。そして、SHIPSの皆さんは良き相談相手として留学生活をサポートしてほしい」とのあいさつがあった。

【ニュース専修2004年6月号14面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

学部発信―経済学部

経済学科

学外特別研修（インターンシップ）で社会見る目養う

01年度より新科目「学外特別研修（インターンシップ）」がスタートしました。この科目は、学生諸君が企業や役所の仕事を実地に体験することで、社会を見る目を養うと共に、経済社会の仕組みや運動に関心をもってもらうことを狙いとして新設されました。経済学の勉強を進めていく上で、現実の経済社会の一端に触れることは、大きな意味があると私たち教員は考えています。研修先としては、製造業、販売業、地方自治体やNPO・NGO（非営利団体・非政府組織）等があります。

この「インターンシップ」の履修者は、夏期休暇中にそれぞれの研修先で、2週間程度の研修を受けますが、それに先立つ事前学習においては、研修先の業務や活動についての調査・情報収集が求められますし、また事後学習では、研修先での経験や知見を整理して、レポートにまとめることが義務づけられています。こうしたインターンシップのプログラムを通じて、学生は貴重な経験を積むことはもちろんですが、それと共に大きな達成感・充足感を得ているようで、そのことは事後学習のレポートを見ても明らかです。

このインターンシップは、直接学生の就職活動を支援するものではありませんが、それが結果として、就職活動に何らかの形で役立っているとすれば、私たち教員は素直に喜ぶべきだと考えます。（酒井 進）

国際経済学科

「海外特別研修」を新設－ 中期留学の奨励措置も

国際経済学科は、本年度の入学者からのカリキュラムを一部改正し、「海外特別研修」「NGO論」などの科目を新設しました。
「海外特別研修」は、夏期休暇中に7～10日程度の海外研修を実施する科目です。そのため、前期は教員が特定の国・地域の経済・社会をめぐる講義をおこない、それに即して作成されたプログラムにもとづいて現地で研修、後期は学生による研修成果の報告・発表をおこないます。研修先は発展途上国も先進国もあります。毎年2展開し、履修できる学生数は約20名。在学中に2回まで履修できます。担当は国際機関でのキャリアの長い飯沼健子助教授が担当し、もう一人の担当教員が来年度着任します。
また、夏期休暇中の海外スタディ・ツアーを含んだ「NGO論」も新設されました。担当はこの分野のエキスパートである狐崎知己教授です。
同時に、今年度から始まった「中期留学プログラム」に対応して、学んだ内容を本学科の開講科目に振り替えて、留学を奨励する措置をとりました。大多数の科目が半期2単位となっている国際経済学科は素早く対応ができたのです。〝第一期生〟として3年生の伊藤友香さんがニュージーランドのワイカト大学で研修中です（5月号既報）。
今後も国際経済学科らしいカリキュラムや学生へのサポートをふやしていきたいと思います。（浅見和彦）

【ニュース専修2004年6月号14面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.